

特集 七尾の今昔物語を紐解く

1市3町の垣根がなくなり、合併してからちょうど8年。地域や人が交わるようになり、一つのまちへと変容した。

まちが大きくなった今、皆さんは七尾市の歴史を知っているだろうか。

七尾市が目指す将来像として「人が輝く、交流体感都市」を掲げてから、さらに県内外や国外から多くの人が七尾城跡などの史跡や、長谷川等伯の作品に触れるため、七尾市を訪れている。私たちは訪れた人にふるさとの歴史を伝えることはできるだろうか。

多くの人が訪れるということは、七尾市の歴史は誇れるものがあり、現存する史跡や資料など、素晴らしい宝があるからである。私たちはふるさに愛着を持ち、ふるさとを語る上で、歴史を紐解く必要があるのではないだろうか。

今月号の特集の意図は、七尾市の歴史に触れ、探究心を持つきっかけになってくれればという願いから。

さあ、過去の時間を旅してみよう。

古 代										原 始				時代							
奈良			白鳳		飛鳥		古墳		弥生		縄文時代		旧石器								
757	748	741	718	710	645	593	538	(600年頃)	(300年前後)	239	(178前後?)	57	6000年前	6000年前	50万年前	700万年前	45億年前	西 暦	出 来 事		
再び能登国ができる	越中国から四郡が分かれ、歌を詠む(万葉集)	大伴家持、能登を巡行して	国分寺建立の詔が出される	越前国内の羽咋・能登・鳳至・珠洲四郡が分立し、能登国となる	平城京(奈良)に遷都	須曾蝦夷穴古墳が造られる	中大兄皇子らが蘇我氏を滅ぼす(大化の改新)	聖徳太子、推古天皇の摂政となる	百濟から仏教が伝わる	国内最大級の大型建物群が建てられる(万行遺跡)	国分尼塚古墳群(前方後方墳)が造られる	矢田高木森古墳(前方後円墳)が造られる	邪馬台国の女王卑弥呼、魏より銅鏡と親魏倭王の称号をもらう	国内最大級の大型建物群が建てられる(細口源田山遺跡)	倭奴国王、後漢の光武帝より印綬を受ける	三引に貝塚が形成される(三引遺跡)	日本列島に稲作が伝来	邑知地溝帯が形成される	佐波に市内最古の縄文集落ができる(佐波遺跡)	人類が誕生(猿人)	地球が誕生

縄文時代(奈良時代)

人類文化のあけぼの 豊かな幸の七尾湾 古墳に眠る王者・能登国誕生へ)

縄文時代から豊かな幸の七尾湾 (三引遺跡)

七尾では、今から6千年前の縄文時代のはじめごろに、七尾湾岸で村を形成して暮らしはじめた。三引遺跡(田鶴浜)や赤浦遺跡では、貝塚が発掘され、七尾湾からの豊かな幸に恵まれていたことがわかった。カキ・ハマグリ・イルカ・イノシシ・シカの骨や丸木舟の櫂、漆塗のくしなどが出土。当時は、温暖な気候で海が三引まで来ていたことが分かった。



三引遺跡の貝塚発掘

弥生時代には、米作りが普及し、七尾でも多くの富を蓄積した有力者が登場する。細口源田山遺跡の方形周溝墓は、弥生時代の有力者の墓である。

国内最大級の大型建物群が建てられる(万行遺跡)

古墳時代初頭、七尾南湾を望む万行町の丘陵地に突如、国内最大級の掘立柱建物群が出現した。柱穴は、人がすっぽり入るほどの大きさで、一番大きな建物は縦17・1m×横18・3m、床面積313㎡、畳で190畳分のもの広さになる。当時、真北に柱筋をそろえる高度な測量技術と建築技術を駆使し、この巨大な建物群を造営した集団が七尾に存在していたことを裏付けている。ただし、建物の性格(倉庫や祭殿など)や誰が造ったのかなど、いまだ謎に包まれたまま。いずれにしろ、日本の古代国家の成り立ちを考える上で極めて重要な遺跡である。



大型建物の柱穴



史跡 万行遺跡全景

権威を現した古墳が造られる

墓に権威を見いだした古墳時代。七尾にも能登の有力者が葬られた古墳がある。古い順から国分尼塚古墳、矢田高木森古墳、院内勅使塚古墳、須曾蝦夷穴古墳など。

古墳とは、単なるお墓ではなく、副葬品などから当時の生活・社会を知ることができる貴重なタイムカプセルのようなもの。



国分尼塚古墳出土の矢じり(銅鏃)



史跡 須曾蝦夷穴古墳全景

大伴家持、七尾湾で歌を詠む(万葉集)

万葉歌人として有名な大伴家持は、奈良時代に能登を巡っている。大伴家持は、越中国であった能登を国司として巡検するため能登に訪れた。七尾では、香島津(七尾南湾)から船に乗り、熊来(中島町)に上陸している。風光明媚な七尾湾の船中で歌を詠み、国歌も『万葉集』に記録している。

香島より熊来を指して漕ぐ船の
楫取る間もなく都し思ほゆ